

2011年1月12日

イビデン株式会社

2011年 イビデン株式会社 賀詞交換会

1月12日(水)午前11時より、イビデン株式会社(本社:岐阜県大垣市、代表取締役社長:竹中裕紀)は、2011年の賀詞交換会を大垣フォーラムホテル(大垣市万石)において開催し、お取引先様約700名様にご参加をいただきました。会では竹中社長の挨拶に続き、小川大垣市長より乾杯のご発声をいただき、和やかな雰囲気の中、参加者の皆様との交流を深めさせていただきました。

竹中社長の挨拶(要約)



昨年の世界経済は、前半は新興国に牽引される形で、緩やかながら景気回復が続きました。しかし、夏以降は、各国の経済支援策も終了し、先進国の景気は再び停滞しました。日本経済においては、急激な円高に見舞われ、大きな痛手となりました。このように昨年は、先進国、特に日本の経済にとって厳しい一年となりました。

当社におきましては、昨年は、リーマンショック以降の世界の新たな変化に適応するために、全事業本部でビジネスの構造改革を行いました。顧客満足 No. 1 を実現するため、お客様の近くで、製販技一体でのサービス体制を確立することや為替の影響を少なくするため、海外生産比率と現地調達比率の向上に取り組みました。更にはまた、事業の付加価値を高めるために、技術の優位性を発揮できるハイエンド製品へ受注をシフトしました。昨年を総括しますと、関係各位のご支援をいただく中で、計画は順調に推移し、受注の質も量も格段に向上しました。しかし、構造改革はまだ途中の段階であり、改善すべきところはまだまだ多くあります。

2011年は、スマートフォン、タブレットPC市場の成長や世界各国の排ガス規制強化により、当社の電子、セラミック事業ともに好調に推移し、設備投資も過去最大級になる見通しです。しかし、当社のライバル企業は、韓国、台湾、中国の巨大資本です。ライバル企業は資金力や為替の優位性、政府のインセンティブを背景に積極的に投資攻勢をかけて、世界市場での生き残り競争を仕掛けています。当社としましては、まず昨年からの構造改革を早急に仕上げ、技術の優位性を高めることでライバル企業に対抗していきます。

来年はイビデン創立100周年にあたります。売上高、利益をリーマンショック以前の水準に近づけ、更にはCSR経営を徹底することで企業としての信用と信頼性を格段に高め、盤石の体制で100周年を迎えたいと思います。関係各位におかれましても、今まで以上に、新技術の提案やグローバル調達で積極的にご支援をお願い申し上げます。また世界各国の法律や規制も刻々と変化しています。「コンプライアンスの遵守」と「クリーン調達」へのご協力も併せてお願い申し上げます。

以上

